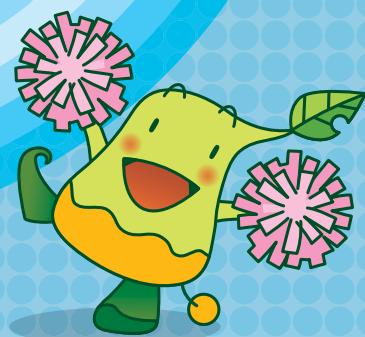
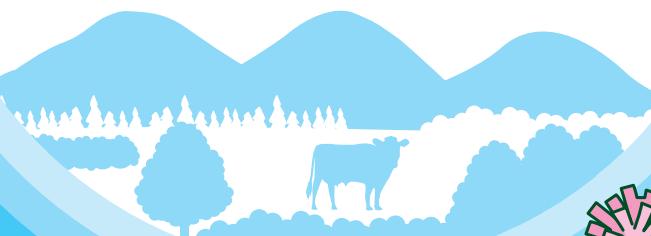


## 第二次真庭市環境基本計画

### [第3部] 目的達成に向けて



# 環境政策を推進するための 6つの施策

6つのキーワードごとの主な施策を中心に、目的達成のために向けて推進していきます。

施策の柱	推進する主な施策
<b>安全 安心</b>	<b>生活環境の確保</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 清らかな水環境の保全</li><li>● 騒音・振動・光害・不法投棄などの公害対策</li><li>● 環境衛生施設の適切な管理運営</li></ul>
<b>循環</b>	<b>循環型社会の形成</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● ごみの発生・排出抑制の推進</li><li>● 廃棄物の資源化の推進</li><li>● 新たな資源の地域内活用の検討</li></ul>
<b>共生</b>	<b>生物多様性の保全</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 生物多様性の重要性への理解醸成</li><li>● 里山などの二次的自然の適切管理</li><li>● 生態系を活用した防災減災対策の検討</li></ul>
<b>自給</b>	<b>再生可能エネルギーの推進</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 真庭市に適したエネルギー自給の検討</li><li>● 地球温暖化防止の取り組み推進</li><li>● 市民との共同事業の検討</li></ul>
<b>郷育</b>	<b>環境教育の推進</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 情報提供による関心の喚起</li><li>● 行動変革と活動参加</li><li>● 人材の育成</li></ul>
<b>交流</b>	<b>関係人口の増加</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 自然資源の再発見・再認識</li><li>● 自然を生かした市外の方との関与機会の増加</li><li>● 環境団体・環境人材の育成</li></ul>

# 安全安心な生活環境の確保

## 目指すまちの姿

清らかな水、さわやかな空気の中で公害のない環境で生活ができるよう、環境に負荷をかけない暮らしを心がけ、安全・安心で快適なエコタウン真庭を目指します。

## 現状と課題

- 湯原ダム上流の地域は、環境基準AA類型に指定されており、わたしたちの生活のため、また、下流域で生活する多くの人々のために旭川を清らかに保っていくことが必要です。
  - 現在、真庭市では、河川・大気・騒音・振動の計測を実施しており、おおむね環境基準をクリアしていますが、清らかな環境として誇れる地域にするためには更なる取り組みが必要です。
  - また、河川、道路にごみが捨ててあったり、不法投棄が確認されることがあります。
  - 一般廃棄物の焼却灰の一部は市外の処分場へ搬出されています。真庭市で出たものは真庭市で処分できる体制を整える必要があります。
- さらに、災害時などの非常事態においても、廃棄物が適切に処理できるよう検討を行うことが必要です。

## 主な施策と方向性

### ◎清らかな水環境の保全

河川管理者(県)だけに頼らず、市役所や市民が自らのこととして環境を考え、市民・企業などとの協働により、清らかな水環境を保全します。

### ◎騒音・振動・光害・不法投棄などの公害対策

安全で快適な環境を損なう行為への対応として、法令順守への普及啓発を各種団体とも連携し推進していきます。

### ◎環境衛生施設の適切な管理運営

市民とともに資源化できるものは資源化していく、ごみの減量化を図るとともに、新たな最終処分場の建設を検討、災害時の廃棄物処理方法の検討、火葬場や墓地の適切な管理運営をしていきます。

岡山県では、「おかやまアダプト」という、県が管理する河川や道路などを地元住民によって美化清掃等を行う事業を実施しています。この取り組みを更に普及させ、道路・河川を自分たちでキレイにしていくという意識を持ち、見守っていくことが重要です。



## 関連計画等

- 真庭市一般廃棄物資源化等基本計画(2016.2)
- 真庭市生活排水対策処理推進計画(2018.3)

- 真庭市災害廃棄物処理計画(策定検討)

## 具体的取り組み



### 丁寧な情報提供

- 計測した河川の水質や大気・騒音・振動の現状について公表します。
- ごみ分別の状況や焼却場の現状について公表します。

### 生活の提案

- 生活排水による河川汚染を防ぐためにも、地域特性等を十分考慮しながら、汚染処理率の向上を図ります。
- ノーマイカーデー、エコドライブ等道路環境向上のために、身近にできることから推進します。
- ペットの適正な飼育に対する普及啓発を行います。

### 機会の提供

- 地区の環境衛生協議会と連携し、河川の一斉清掃などを協働して取り組みます。
- 地元自治会と連携して不法投棄看板を設置し、近隣の生活環境の向上に努めます。

### めぐみの還元

- 身近で清らかな河川環境の提供を行います。
- 負担感の少ないごみ処理(行政の提供)を行います。



### 学ぶ・理解する

- 水辺などの身近な環境に対する保全意識を高め、下流までのつながりを考えていきます。
- ごみの分別を適正に行い、資源にできるものは資源にしていきます。

### 負荷を減らす

- 公共下水道への接続または合併浄化槽の導入・適正管理をします。
- ノーマイカーデーの導入、エコドライブを実践します。
- 合成洗剤の使用を極力減らし、石けんの使用を進めます。

### 参加する

- 周辺で実施している河川や道路の清掃活動や環境保全活動などに参加します。
- リサイクル活動に参加してごみを減らします。

### 豊かな生活



## 「まにわらしさ」のある景観整備に関する基本方針書

### ～来訪者の感動と住民の愛着感を目指して 真庭市の看板・トイレづくり～

観光客及び市民が、真庭市という地域を愛することができるような看板・トイレづくりを目指すための指針です。環境行政において、本方針を踏まえた整備を推進していきます。

# 循環型社会の形成

## 目指すまちの姿

「大量生産・大量消費・大量廃棄」型のライフスタイルを見直し、有限な資源の効率的な利用やリサイクルを進めることにより、資源の消費が抑制された循環型のエコタウン真庭を目指します。

## 現状と課題

- 真庭市においても人口が減少していく中、廃棄物の処理方法を将来を見据えて検討していかなければなりません。ごみ焼却施設は3施設あり、施設の老朽化なども考慮して、統合を視野に入れた検討が必要です。そのためにも、ごみの総量の削減が喫緊の課題です。
- 現在、真庭市では、一部の地域で燃えるごみの約50%を占める生ごみを、浄化槽汚泥やし尿とともに資源化する取り組みを行っています。この取り組みが全地域に広がるためにも、市民も含めた様々な関係者と連携を行っていく必要があります。
- その他にも、有限な天然資源の消費を抑制するために、真庭市の資源を有効的な活用を図っていくことが重要です。

## 主な施策と方向性

### ◎ごみの発生・排出抑制の推進

マイバッグの持参や食品ロスの削減などの4R<sup>\*</sup>の推進を行い、ライフスタイルの変革を図っていきます。

### ◎廃棄物の資源化の推進

様々な関係者との連携により、バイオマス循環システムを確立し、全国のモデル地域を目指していきます。

### ◎新たな資源の地域内循環活用の検討

地域に眠って活用されていない資源を発掘し、地域内で循環活用していくことを検討します。



## バイオ液肥

真庭市では、生ごみ、し尿、浄化槽汚泥をごみとして処理するのではなく、メタン発酵させ、液体肥料「バイオ液肥」として資源化しています。2017年度から「バイオ液肥スタンド」を設置し無料で配布しています。バイオ液肥は肥料登録を済ませています。安心してご利用ください。

\*4R：ごみを減らすための具体的行動「リフューズ (Refuse 断る)」「リデュース (Reduce 減らす)」「リユース (Reuse 再利用)」「リサイクル (Recycle)」の頭文字をとって、4Rと言います。



## 関連計画等

●真庭市一般廃棄物資源化等基本計画(2016.2)

●真庭市バイオマス産業杜市構想(2014.3)

## 具体的取り組み



市役所

### 丁寧な情報提供

- ごみ分別・減量化の方法をわかりやすく伝えます。
- 焼却場や最終処分場の現状について公表します。
- ごみの処理手数料の適正化を検討します。

### 生活の提案

- マイバッグの持参や食材の使い切りなど4Rを実践し、日常におけるごみの減量化に努めます。
- 4Rの考え方を普及させるため、環境講座などを開催していきます。
- 生ごみを資源にする取り組みを全市域での実施を検討します。

### 機会の提供

- 「リサイクルプラザまにわ」や「リユースプラザ醍醐の里」を活用したリサイクルを推進します。
- 地域での資源回収に対して支援を行い、ごみの資源化を図ります。

### めぐみの還元

- バイオ液肥をつかった農業や家庭菜園を支援していきます。
- 負担感の少ないごみ処理(行政の提供)を行います。



市民

### 学ぶ・理解する

- ごみの分別と排出のマナーを守っていきます。
- 市内のごみの現状について知るよう心がけます。

### 負荷を減らす

- マイバッグの持参や食材の使い切りなど4Rを実践し、日常におけるごみの減量化に努めます。
- 家庭菜園などで、バイオ液肥を使っていきます。

### 参加する

- 積極的に地域の資源回収に参加し、ごみの資源化を行います。
- 地産地消の取り組みを実践していきます。

### 豊かな生活



## 地産地消

地域で生産されたものを地域で消費することで、地域の農業、関連産業の活性化だけでなく、生産者と消費者の距離が近く、顔が見え話ができる関係を構築することによる安全安心な供給体制ができます。また、鮮度の維持や輸送にかかるエネルギーの省力化により、環境への負荷を軽減する効果もあります。

# 生物多様性の保全

## 目指すまちの姿

豊かな自然からの恵みを理解し、将来の世代までその恵みを持続的に享受できるよう、生物多様性の重要性を認識し、自然と共生するエコタウン真庭を目指します。

## 現状と課題

- 真庭市の特徴的な生き物についての理解、豊かな自然からどのような恵みを享受しているかについての理解が進んでいません。
- 真庭市には、種の保存法や岡山県希少野生動植物保護条例により希少種として指定されている非常に貴重な種が確認されています。これら貴重な種を国や県、地元の方々などと連携して保全していくことが必要です。
- 里山を保全・活用し「里山資本主義まにわ」の対外発信を更に進めていく可能性が大きいにあります。
- オオキンケイギクやアメリカザリガニなど外来種の移入により、地域独自の生態系がこわされており、対策検討が必要です。
- 国立公園蒜山地域が国立公園満喫プロジェクトのモデル地域の一つに選定されました。本プロジェクトでは、国立公園を関係者とともに積極的に活用していくこととしています。しかし、蒜山の草原面積は減少傾向にあり、保全していく体制づくりの検討が必要です。

## 主な施策と方向性

### ○生物多様性の重要性への理解醸成

生物多様性の重要性、私たちの生活は自然から多くの恵みを享受していることを伝えていきます。また、生物多様性を活用した地域づくりのモデルをつくりそれを市内全域に波及していきます。

### ○里山などの二次的自然の適切管理

農地生態系を保全するための農地法の適切利用や、鳥獣害の被害の軽減などの里地里山の課題を、地域だけの問題とすることなく、外部の人材や資金の活用も検討しながら持続的な取り組みを検討していきます。

### ○生態系を活用した防災減災対策の検討

自然環境の保全は、防災減災にも資するという考えを積極的に取り入れて、自然生態系に配慮したまちづくりを検討していきます。

## 生物多様性

生き物や生態系の豊かさを表す言葉です。単に色々な生き物がいるだけのことではなく、それぞれの地域でひとつひとつ「個性」をもった多様な生き物が、他の生き物と直接的・間接的に「つながり」を持って生きています。



## 関連計画等

- 真庭市生物多様性地域連携保全計画(2014.4)
- 生物多様性まにわ戦略(仮称)(策定検討)
- 真庭市版自然再生法定協議会(設置検討)

## 具体的取り組み



### 丁寧な情報提供

- 真庭市版レッドデータブックを活用するなど生物多様性の重要性を普及する講座を開催します。
- 地域全体の理解を深めるためにも生物多様性まにわ戦略の策定を検討していきます。

### 生活の提案

- 里山を適切に保全していく生活スタイルや取り組みを提案します。
- 草原の減少を止めるためにも、生活の中で草原を保全する方策について検討していきます。

### 機会の提供

- 誰でも参加できる生態系保全活動を市内様々なところで実施していくために、保全する人(活動)、伝える人(教育)、利用する人(観光)との連携を進めます。
- 大学等の研究機関とも連携して、科学的知見も踏まえた保全活動を実施します。
- 「津黒いきものふれあいの里」や「オオサンショウウオ保護センター」などの拠点施設の更なる有効活用を検討します。

### めぐみの還元

- 源流域ならではの地域づくりを検討し、豊かな自然のもとでの生活を提供します。



### 学ぶ・理解する

- 自然観察会や生物多様性に関する講座に参加して、その重要性について理解していきます。

### 負荷を減らす

- 地域でできた農林作物、木材等を買うようにします。
- 緑化の推進など生きものの育つ場をつくり、守っていきます。

### 参加する

- 身近な生き物の生息生育場の確保、それを保全していきます。
- 生態系保全活動や森林整備体験活動等に積極的に参加します。
- 生態系をこわす外来の植物・生き物を見ついたら、積極的に駆除をしていきます。

### 豊かな生活



## 生態系サービス

自然から将来にわたって生み出される自然の恵みをいいます。①供給サービス ②生息・生育地サービス ③調整サービス ④文化的サービス で分けられることが一般的です。分類していくと、どのような環境がどのような恵みをもたらしてくれるか分かりやすくなります。

# 再生可能エネルギーの推進

## 目指すまちの姿

市内の自然資源から生まれる再生可能エネルギーの活用を推進するとともに、省エネルギーを更に進め、低炭素社会のエネルギー・エコタウン真庭を目指します。

## 現状と課題

- 真庭市では、官民出資の真庭バイオマス発電所が稼働しており、林地残材、製材端材、樹皮等の地域に眠っていた資源を有効活用し、約22,000世帯分のエネルギーを生産しています。
- 木質バイオマスの活用を更に推進するためには、環境面においても現状分析を行うことが大切です。
- また、真庭市にあるその他様々な資源（水、風、太陽等）のさらなる有効活用の検討が重要です。
- 電力を地域内でできる限り貯うことは、地球温暖化対策への貢献、災害に強いまちづくり、地域内経済循環による地域活性化に寄与することができます。
- さらに、省エネへの取り組みを更に推進し、電気を使うことにも関心を持っていくことが重要です。

## 主な施策と方向性

### ◎真庭市に適したエネルギー自給の検討

- 地域性を考慮した再生可能エネルギーの推進を検討するとともに、地域新電力での市内電力供給を検討するなど地域内経済循環による地域活性化を目指していきます。
- 公共施設に再生エネルギーの整備を推進し、災害対策と併せた取り組みを検討します。

### ◎地球温暖化防止の取り組み推進

- 「COOL CHOICE\*」など、国や県と連動した取り組みを推進します。
- 施設照明や防犯灯のLED化の推進やバイオマスボイラの導入など、真庭市らしい省エネ化を推進します。

### ◎市民との共同事業の検討

- 岡山市での取り組み事例などを参考とし、地域やコミュニティで発電事業を実施し、その利益を地域に還元する仕組みを検討します。

## パリ協定

2015年フランス・パリにおける国連の会議（COP21）において、温室効果ガス削減のための新たな国際枠組として、「パリ協定」が採択されました。日本では、温室効果ガスの排出量を、2013年度比で2030年度までに26.0%減、2050年度までに80%減を目指すこととしています。真庭市でも國の方針を踏まえ、地球温暖化対策を推進していきます。

\*COOL CHOICE(クールチョイス)：地球温暖化を防ぐために、わたしたち一人ひとりが「地球のことを考え、賢く行動しよう」という取り組みです。



## 関連計画等

- 真庭市バイオマス産業都市構想(2014.3)
- 真庭市地球温暖化対策実行計画[地域施策編](策定検討)
- 真庭市地球温暖化対策実行計画[事務事業編](2017.3)
- 真庭市エネルギービジョン(策定検討)

## 具体的取り組み



### 丁寧な情報提供

- 地球温暖化の現状を整理し、今考えるべきことを伝えます。
- 真庭市らしい再生可能エネルギーの推進施策を検討していきます。
- 公共施設において省エネルギー設備を率先して導入し、効果を発信します。

### 生活の提案

- 身近なところから地球のためにできることを行う「COOL CHOICE」の取り組みの普及啓発を行っていきます。

### 機会の提供

- バイオマスピヨラを活用したJ-クレジット制度を活用します。
- 地域資源を活用したエネルギー供給施設を環境学習の場として活用します。

### めぐみの還元

- 地域で生まれたエネルギーの利益を地域で還元できる仕組みを検討していきます。



### 学ぶ・理解する

- 地球温暖化の現状、電気・エネルギーの仕組みについて学び理解します。
- バイオマスターー真庭に参加し、市の取り組みを学んでいきます。

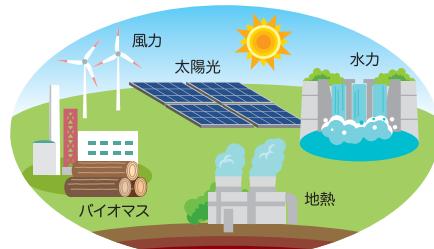
### 負荷を減らす

- 地域の防犯灯のLED化を進めます。
- クールビズ、エコドライブなど身近でできる行動から実践します。
- 家電の買い替えの際には、省エネ機器の購入を検討します。

### 参加する

- 地域の資源で地域が発電を行うコミュニティ発電が実施されるときは積極的な参加を検討します。

### 豊かな生活



## 小水力発電の仕組み

発電量は水のエネルギーである流量と落差によって決まります。小水力発電は、流量が一定な場所では24時間発電するというメリットがあります。身近な水路で発電してみませんか？

$$\text{水の流れによる発電量 (kW)} = \text{重力加速度 (9.8m/s}^2 \times \text{流量 (m}^3/\text{s}) \times \text{落差 (m)} \times \text{発電効率 (\%)}$$

# 協働による環境教育の推進

## 目指すまちの姿

持続可能な社会づくりの担い手をはぐくむ取り組みの「ESD」の視点を広め、様々な世代を対象とした学びであるESDを推進するエコタウン真庭を目指します。

## 現状と課題

- 私たちが環境にやさしいライフスタイルへの転換を図るために、市民一人ひとりが環境への関心を持ち、理解を深めて、環境に配慮した行動を心掛けていくことが重要です。
- そのためには、子どもから大人まであらゆる世代が、地球や身近な環境に関心を持ち、人と環境との関わりについて学ぶ場と機会の創出が必要です。
- 真庭市には、「津黒いきものふれあいの里」や「オオサンショウウオ保護センター」などの環境拠点施設があり、より有効的に活用することが必要です。
- 真庭市が2016年7月に策定した真庭市総合教育大綱において、「郷育」を掲げ、ふるさとを知り、ふるさとへの思いを育てる(地域を生かし魅力を増やす)ことを推進しています。(真庭市の自然や風土の中で体験や経験を通じて、ふるさとに対する愛情と誇りを育てる。)
- これらは、市役所の取り組みだけでなく、学校や地域や各種団体などの多様な主体と連携を図っていくことが必要です。

## 主な施策と方向性

### ◎情報提供による関心の喚起

人と自然や地球環境と日常生活との関わりについて学ぶ機会を学校や公民館、地域自治会等と連携して積極的に設けていきます。

### ◎行動変革と活動参加

豊かな自然環境から得られる恵みを理解してもらえるよう、様々な体験活動の場を提供します。

### ◎人材の育成

真庭市にESD(持続可能な開発のための教育)の視点を広め、地域の資源を生かし、未来につなげるため行動する人材を育てていきます。



## ESD(持続可能な開発のための教育)

ESDとは、世界の人々や、地球上の生き物、そしてこれから先の未来のことも考えて、みんなが幸せに暮らしていく社会にするために、私たち一人ひとりが気づき、主体となってできることを考え、行動するための学びです。ESDでは、「全ての場が学び場」で「全ての人が学ぶひと」になります。



## 関連計画等

●第2次真庭市教育振興基本計画

●生涯学習基本計画

## 具体的取り組み

### 情報提供

- 全世界で進められているESD(持続可能な開発のための教育)の視点を真庭市でも広めていきます。
- 広報誌や市のHPなどを活用して、環境問題について丁寧に情報提供していきます。
- 真庭市にあるごみの焼却場の見学会を実施するなどして、ごみについて考える機会を提供します。
- 学校等と連携して出前授業の実施や、拠点施設を活用した体験学習の機会を提供します。
- 小さい頃から真庭市の自然を五感を使って体験できるプログラムを充実していきます。
- 自治会などによる資源回収団体による自主的な廃品回収の実施への支援を行っていきます。
- 環境衛生協議会などと連携した河川の一斉清掃の支援や県と連携した河川や道路のアダプト事業の周知を実施していきます。
- 様々な分野で活動している方も巻き込みながら、環境学習を実践できる「マルチ」に活躍できる人材を育成していきます。

### 関心の喚起

### 行動変革

### 人材育成

## ESDによって変わる、一人ひとりの行動

◎流しそうめんで例えると…



みんなが流しそうめんを食べられる社会をつくるのが「持続可能な開発」です。

# 関係人口の増加

(関係人口:自ら地域に週末毎に通ったり、

## 目指すまちの姿

旭川にみる「水のつながり」を生かした上下流の連携を活性化させるとともに、地域の自然資源の魅力を再認識し発信することで多くの関係人口に恵まれたエコタウン真庭を目指します。

## 現状と課題

- 真庭市の恵まれた自然環境などの価値や外部からの評価が市民に知られていないことも多く、まちの魅力を市外に十分に発信できていません
- 自然環境をベースに、外内部の人からの関心と関与を生み出すとともに、それが地域の活性化につながる可能性があります。
- 新たに事業を企画することだけでなく、今あるものをレベルアップし、交流を生み出す発想も大切です。
- 国立公園蒜山が環境省が選定する国立公園満喫プロジェクトのモデル地域として選定されるなど、真庭市の豊かな自然環境が外部から評価されてきています。
- 2016年度に、岡山市と連携中枢都市圏形成に係る連携協約の締結し、岡山市とともに河川環境保全の推進を図ることとしています。

## 主な施策と方向性

### ○自然資源の再発見・再認識

- 市内の希少な生き物や植物を地域の人たちと再認識していきます。
- 人と自然の関わりによって保全されている真庭市の魅力的な(二次的\*)自然を外部に発信し関心を高めています。

### ○自然を生かした市外の方との関与機会の増加

- 岡山市との協定を踏まえて、岡山市と連携して実施していきます
- 地域の自然を、都市部住民や企業、専門家などの外部の人材の力も借りながら保全していきます。

### ○環境団体・環境人材の育成

- 保全活動が持続的なものとなるよう、市内の環境保全に関わる団体や人材の育成を図っていきます。
- 多様なジャンルの人々が環境人材として活躍できる仕組みを検討します。

## 蒜山に広がる草原景観

蒜山地域には、蒜山三座や三平山をはじめ、見渡す限りの広大な草原が広がっています。そのような牧歌的な景観が評価され、昭和38年(1963)には、大山隠岐国立公園に編入されました。昔から草原を維持するため、雪解け後の春に草原に火をつけて枯草を焼く「山焼き」が行われてきました。1940年代には、旧川上村の総面積の14.1%(1,200ha)で火入れが行われていたと言われています。一方、現在、蒜山地域で火入れが実施されている面積は67.3haとなり、約18分の1となってしまっています。

\*二次的自然：人が手を加えることで管理・維持されてきた自然環境。



頻繁に通わなくとも何らかの形でその地域を応援してくれるような人たち)

## 関連計画等

- 岡山市との連携中枢都市圏形成に係る連携協約(2016.12)
- 国立公園満喫プロジェクト(国立公園 蒜山 )
- 自然再生推進法に基づく真庭市自然再生協議会の設立(検討)
- 交流定住推進計画

## 具体的取り組み

### 関心を高める

- インターネットや広報誌などを活用して、市内外の人たちに真庭市の環境保全の取り組みを発信していきます。
- 真庭市版レッドデータブックを活用するなどして、市内外の人たちに対して真庭市の特徴のある自然環境や動植物などへの理解を深めていきます。
- 岡山市と連携の活用や国立公園満喫プロジェクトとの連携を行うなどして、市外で真庭市の豊かな自然を発信する機会を作っていくします。
- 生ごみ等から液肥を製造などの真庭市の環境面での特徴的な取り組みをバイオマスツアー・真庭に組み込んで積極的にPRしていきます。
- 豊かな自然環境を生かしたエコツーリズムを推進していきます。

### 関与を深める

- 岡山市と連携するなどして、市外の方が真庭市の豊かな森や川と接する機会をつくりていきます。
- 蒜山などの草原を外部の方の協力をいただきながら山焼きを実施するなど保全していく仕組みをつくっていきます。
- 人の手が入らなくなつて失われつつある二次的自然を専門家の知見を借りながら保全していきます。
- 真庭市全域に生息するホタルなどの自然資源の持続的な活用により、地域の活性化につなげていくために、観光業との連携を図っていきます。
- 国立公園満喫プロジェクトとの連携などにより、全国へ向けて魅力発信できる地域の素材を作っていくします。

### 丁寧な情報提供

- 地域への関わりに合わせて下記のステップを参考に情報発信方法を検討します。
  - ①観光・訪問
  - ②特産品購入
  - ③定期的な訪問
  - ④地域活動の参加
  - ⑤二地域居住

## 岡山市との連携中枢都市圏形成に係る連携協約

真庭市は、経済成長、高次の都市機能の集積・強化及び生活関連機能サービスの向上の3つの役割に応じた取り組みを岡山市と連携して実施することを目的に2016年10月に岡山市と連携協約を結びました。その中には、「ESDによる人づくりとネットワーク化の推進」、「河川環境保全の推進」といった環境分野で関係の深い取り組みがあります。

## 第二次真庭市環境基本計画

# [第4部] 計画の進め方



# 計画の推進方法

## 点検と評価

本計画の理念や方向性を広め、真庭市の環境行政を着実に進めるために、真庭市で実施している行政経営体制(CAPDサイクル)により各施策との連動を図り、本計画を踏まえた部局経営目標の作成、事務事業評価の実施を行い、各施策の達成状況を把握していきます。

## 他者との連携

環境問題は市内で完結するものではありません。より広域的な視点に立って対策を行うことが必要です。本計画の目的・目標を達成するため、国や県、その他の自治体との積極的な連携や情報の共有を図っていきます。また、更なる推進のためにも各種補助金の活用を積極的に検討していきます。

## 計画の見直し

社会情勢の大きな変化や環境保全に係る新たな課題の発生など、現時点で想定されないことに対応する必要が生じた場合、適時適切に計画を見直すこととします。

### [真庭市行政経営体制 (CAPDサイクル)]

